

株主のみなさまへ

TOWA REPORT

第59期 事業のご報告

平成26年4月1日～平成27年3月31日



CONTENTS

ごあいさつ	1
TOWA NEWS DIGEST	2
トップ・インタビュー	3
TOWA'S TOPICS	8
業績の概要	9
連結財務諸表(要約)	11
個別財務諸表(要約)	13
会社の概況と株式の状況	14

くすりのあしたを考える。



東和薬品



代表取締役社長
吉田 逸郎

業界環境が激変する中、今期の業績も順調に推移。 「製品総合力No.1の製品づくり」に取り組み、 東和ブランドを確立してまいります。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第59期の事業のご報告(平成26年4月1日から平成27年3月31日)をお手元にお届けいたします。

当期の業績につきましては、平成26年4月の薬価制度改革において大きな変化があり、当社既存品の薬価が大幅に引き下げられ、競争環境が厳しさを増しました。一方、診療報酬改定でDPC病院の機能評価係数Ⅱに後発医薬品指数が新設されるとともに、保険薬局では後発医薬品調剤体制加算が見直されたことにより、病院及び保険薬局市場において、ジェネリック医薬品の使用が大きく促進されました。

このような業界環境の中、これまでの先行投資による安定供給体制の確立、並びに東

和式直販体制による当社付加価値製品を中心とした販売が功を奏し、当期の業績は当初予想を超えて順調に推移いたしました。当期の配当金につきましては、連結当期純利益が前年比で大きく増加いたしましたので、株主の皆様への感謝も込めて、期末配当金として当初計画に比べ20円増額し、1株当たり57.50円とさせていただきます。これにより、中間配当金と合わせて通期で1株当たり95円(配当性向14.5%)といたしました。

内部留保金につきましては、引き続き中長期的視点からの経営体質の強化、企業価値の増大を図るために、研究開発力の充実、安定供給責任を果たすための設備投資、営業体制の拡充・強化などに充てさせていただきますと存じます。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月

●● 業界の動向

平成26年度薬価制度改革により、薬価の面でジェネリック医薬品メーカーにとっては厳しい制度変更がありました。その一方で、診療報酬改定による病院や保険薬局におけるジェネリック医薬品の使用促進策も打ち出され、病院・保険薬局市場を中心にジェネリック医薬品の使用が大きく促進されました。このような状況だからこそ、ジェネリック医薬品メーカーには、これまで以上に製品の品質管理と安定供給に力を注ぐことが求められています。

薬価基準追補収載 6成分15品目を 11月、12月に新発売

高血圧症治療剤であるカンデサルタン製剤、抗血小板剤であるシロスタゾールOD錠は、分割後も製品名が判読しやすいよう割線に合わせて製品名を印字しました。抗菌剤であるレボフロキサシン製剤は、嚥下機能が低下した患者さんにも服用しやすいよう、OD錠と内用液の剤形を追加しました。抗がん剤の注射剤であるオキサリプラチンは、曝露対策、識別性向上により、医療現場の安全に配慮した製剤を提供しています。

割線に合わせた
製品名印字



曝露対策と
識別性の向上



TOWA NEWS DIGEST

この半期の主な取り組みと
新製品をご紹介します。



原薬製造工場の稼働

当社製剤に合わせた原薬製造ができる大地化成株式会社兵庫工場が完成し、3月9日から稼働を開始しました。原薬の段階から品質の高い製品づくりを目指し、さらに安定供給体制の向上を図り

ます。記者向け見学会では、19社29名のメディアの方々にお越しいただきました。この模様は業界紙各社はじめ、中央紙、地方紙にも取り上げられました。



記者向け見学会の様子

医療関係者への情報提供を実施

さまざまな学会で展示ブースやセミナーによる情報提供活動を行っています。ジェネリック医薬品の信頼性向上のため取り組んでいる、T-LEX法（薬剤性ヒト肝障害リスク予測法）の開発。この取り組み

をより多くの医療関係者に知っていただくため、紹介ビデオを作成しました。また、T-LEX法を題材にした意見交換の様子を、医療関係者向け雑誌に記事体広告として掲載しました。



日経メディカルに掲載した記事体広告の別刷りを、医療従事者に配布しました。

一般の方々への広報・広告活動

ジェネリック医薬品の啓発広告として、「ワタシの、センタク。」プロジェクトで一般の方々へ向けたイベント活動を継続して行っています。この半期では、京都国際映画祭をはじめとしたイベントに参加。

イベントではジェネリック希望シールとともに黒柳徹子さん、南こうせつさんの対談からおくすりのセンタクなどを紹介している小冊子を配布し、活動から一年で29万部を配布しました。また、AMラジオ

番組提供をニッポン放送はじめ全国5カ所で行い、3月29日にはニッポン放送にて、南こうせつさんのトーク&ライブ公開収録を開催。当選した100名を超えるリスナーにご参加いただきました。



Top 特集 インタビュー Interview

選択され続ける

薬価制度改革と診療報酬改定が行われ、

ジェネリック医薬品を取り巻く環境が

大きく変化した第59期。

その1年間の市場の状況と業績の振り返り、

また今期発表した中期経営計画への

取り組みについて、

吉田社長に語っていただきました。

第59期の業績について

薬価制度が大きく変わる中、 国の使用促進策が後押しに。

第59期は、4月に薬価制度改革や診療報酬改定が行われ、ジェネリック医薬品業界の環境が急激に変化した1年でした。

特に薬価制度改革では、ジェネリック医薬品の新規収載品の薬価が引き下げられ、既収載品の薬価も3価格帯に集約されたことで、各メーカーの薬価が大きく変化しました。当社は適正価格販売をしているため、他社の製品の薬価よりも高いものが多くありました。今回の薬価制度改革により、薬価が引き下げられた製品が多く、その結果として販売価格が全体的に低下し、売上高はやや厳しい状況になりました。

“東和ブランド”の確立へ。

一方で、診療報酬改定により、DPC病院の機能評価係数Ⅱに後発医薬品指数が新設され、保険薬局の後発医薬品調剤体制加算が見直されるなど、使用促進策の後押しがありました。これにより、販売数量が大きく増加し、販売価格の低下分をカバーした形になりました。結果、売上高は71,470百万円と計画を下回りましたが、営業利益は11,105百万円と計画を上回り、順調に推移しました。山形工場が順調に稼働しており、設備稼働率が上がったため製造原価が改善されたことも、営業利益が伸長した要因のひとつです。

中期経営計画の策定について

薬価制度改革から1年、 新たな経営計画を策定。

前述の通り、前期はジェネリック医薬品を取り巻く環境が大きく変化する状況にあったため見通しが立ちにくく、中期経営計画の策定を見送りました。薬価制度改革から1年が経過し、その改革による経営への影響の見通しが立ったことで、中期経営計画（平成27～29年度）を今期発表することとしました。

また、平成25年（2013年）4月に厚生労働省から発表された「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」において設定された数量シェア60%以上という目標が、平成30年（2018年）3月末を期限と

中期経営計画（平成27～29年度）について

主要課題

信頼性のさらなる向上

～東和ブランドの確立に向けて～

- 1 安定供給体制の向上**
原薬の安定確保／工場の生産能力引き上げ
物流量増加への対応
- 2 東和式直販体制の確立**
大都市圏を中心とした営業所の再編成／
代理店との関係強化
- 3 製品総合力No.1の製品づくり**
飲みやすく扱いやすい製品／
原薬の段階から、製剤、包装に至るまでの
付加価値の研究開発

中期経営計画業績目標数値（連結）

売上高(億円) 売上高: 目標 営業利益: 目標 営業利益(億円)



した数値のため、その達成に向けても良いタイミングだと思います。

主要課題について

ジェネリックメーカーに求められる、より確かな「信頼」に応えるため。

今回の中期経営計画で掲げた課題は、「信頼性のさらなる向上」。そのための具体的な取り組みが、「安定供給体制の向上」と「東和式直販体制の確立」、「製品総合力 No.1の製品づくり」です。前回の中期経営計画（平成23～25年度）と方向性は同じですが、使用促進策などにより、ジェネリック医薬品の数量シェアが50%を超えている状況の中、ジェネリック医薬品メーカーの「信頼性」は、これまで以上に重要視されるようになっていきます。

そのため、数多くあるジェネリック医薬品メーカーの中で、他社との差別化がさらに必要だと考えます。つまり、当社の取り組みや製品の特長を患者さんや医療関係者に認識していただき、信頼性を向上させ、東和ブランドを確立することの重要性が高まっているということです。そのためには、従来から掲げてきた、「安定供給体制の向上」、「東和式直販体制の確立」、「製品総合力 No.1の製品づくり」への取り組みを一層進め、それをあらゆる方々に知っていただく努力が必要だと思います。

前回と方向性は同じですが、信頼性の向上への取り組みの重要度はますます増していると、思いを新たにしています。

安定供給体制の向上について

原薬から生産、物流と営業まで、あらゆる面での安定供給を。

国がメーカーに求める「安定供給体制」は、近年の需要増を背景に、ますます強く、広義になっています。いかなる時も安定供給責任を果たすためには、原薬を安定的に確保し、十分な生産能力を持ち、非常時にも途切れない



い強固な物流と営業網をつくる必要があります。

今年3月に原薬製造工場である大地化成兵庫工場が稼働を始めたことで、原薬の確保については大きく前進しました。外部から購入している原薬の一部をグループ会社で製造できるほか、原薬の製造プロセス開発が行えるようになり、原薬の委託製造もしやすくなります。当社製品のための原薬製造工場を所有しているという点は、当社の大きな強みです。

製品の生産能力については、見込まれる需要増に対応するため、現状の75億錠から125億錠へと強化します。今期に岡山工場を増強し、来期には山形工場を増強する予定です。3工場間のバックアップ体制は、非常時に備えてしっかりと整備していきます。

物流面の安定供給は東西2拠点体制で確保しており、製品の販売や配送については東和式直販体制のさらなる充実にかかっています。

東和式直販体制の確立について

大都市圏を中心に販売網をさらに細やかに、そして強固に。

これまでと同様に営業所を新設し、東和式直販体制の確立をさらに進めます。特に、病院の数が多く市場規模が大きい大都市圏の販売網の強化に注力する予定です。緊急の場合や夜間であっても安心して注文いただけるだけでなく、情報提供の細やかさも、同時に高めていけると考えています。



製品総合力No.1の製品づくりについて

原薬から製品までの総合的な付加価値の向上。

現在、ジェネリック医薬品市場は成長期にあります。団塊の世代が後期高齢者の75歳以上になる平成37年(2025年)を境に医薬品市場は縮小に転じ、製品の淘汰が始まることが予想されます。そのため、患者さんや医療関係者など、さまざまな立場の方に選び続けていただける製品を作ることは、長期的に取り組むべき重要課題のひとつです。将来にわたって使い続けられると思われる製品を原薬から再検討し、改良に着手しています。販売が好調な製品でも見直しを行い、徹底的にこだわることで、品質やコスト競争力などの製品総合力を高められると考えています。

例えば、熱や光、湿気などに強い、高品質な製品の開発も進めています。光や湿気などにさらされても性質が変化しにくい製品であれば、医療関係者は安心して投

薬ができ、患者さんもくすりの管理がラクになります。製品に工夫を加え、さまざまな立場の方にとっての付加価値を高めることは、東和薬品だからこその取り組みだと思っています。

原薬製造工場稼働により得られる、製品づくりへのメリット。

前述した原薬製造工場の稼働を製品づくりの観点から見ると、原薬にまでさかのぼり製品の品質を高められるというメリットがあります。従来は、購入した原薬を製品に合わせて加工する工程が必要でしたが、グループ会社での製造により当社の品質基準を満たした最適な結晶形・粒度の原薬が得られるようになります。委託製造についても、当社で原薬の製造プロセスを確立できるようにするため、当社製品の品質に合った原薬を適正な価格で取り扱えるようになります。品質向上や工程短縮、コスト最適化などのメリットが、最終的に製品総合力として製品に反映できると考えています。

COIプロジェクトへの参画により、期待される技術革新。

原薬の研究開発は、東京大学と共同で行っているCOI(センター・オブ・イノベーション)プロジェクトでも進めています。主なテーマは、幅広い薬剤に適した原薬の結晶形や粒度を自由にコントロールする結晶制御技術の開発です。他にも、製造の基盤技術の確立を目指し、合成プロセスや晶析技術の開発に取り組んでいます。



大地化成兵庫工場が稼働

第60期の見通しについて

新たな中期経営計画への取り組みのスタートの年に。

第60期の売上については、近年の追補品を中心として伸ばす計画です。取引先としては、DPC病院と保険薬局での伸びが期待されます。

今後は、海外市場へのさらなる展開も計画しています。海外市場において、日本製のジェネリック医薬品は決して安くはありませんが、高品質で付加価値のある製品の良さを正しくご理解いただければ、価格競争に巻き込まれることなく、適正な価格で販売できると考えています。水なしで飲めるOD錠は、水事情の良くない地域の服薬環境を改善することができますし、熱・光・湿気に強い製品は高温多湿な地域で重宝されるのではないのでしょうか。高品質で付加価値のある製品を海外に広めるための準備を始めたいと思います。

ワタシの、 センタク。

おくすりの“センタク”を 身近に感じていただくために。

人生の大切な“センタク”をさまざまな角度から応援する本プロジェクト。
開始から1年が経ち、ウェブコンテンツもますます充実。各地のイベントに参加し、
“センタクされる東和薬品のジェネリック”を目指して活動しています。

パペット人形劇をウェブで配信 ジェネリック医薬品をやさしく解説

当社CMの顔である黒柳徹子さんと、「ワタシの、センタク。」メッセンジャーである南こうせつさんのお二人が登場するパペット人形劇「ジェネリックセンタク劇場」を昨年12月より、プロジェクトサイトでご紹介しています。

この作品は「聞いたことはあるけど、詳しく知らなかったジェネリック医薬品」を、業界全体の普及に向けた目的で制作しました。人形劇で紹介することにより、幅広い年齢層の方に分かりやすく伝わりやすい内容に仕上がっています。また、パペットの声は黒柳徹子さん、南こうせつさんがそれぞれご担当され、ユーモアを交えて楽しく学んでいただけるよう演じてくださっています。



人生の“センタク”について 黒柳さんと南さんが特別対談

「ワタシの、センタク。」プロジェクトは、生活、健康、キャリアなど、さまざまな人生の“センタク”に迫られる40~60代の方々に、参考となる情報コンテンツの提供を行っています。その中で、黒柳徹子さんと南こうせつさんお二人に、それぞれの人生の岐路でセンタクされてきた事柄を語っていただきました。TVの世界に入るきっかけから、ご自身の結婚話、そして当社CMの顔になってくださる決断のいきさつを語っていただいた黒柳徹子さん。南こうせつさんには、音楽業界に入るお話や、ご自身の結婚観などを。この内容は、プロジェクトサイトにて動画でもご覧いただけます。



<http://towa-sentaku.jp>

業績の概要

業績ハイライト(連結)

売上高



経常利益



当期(四半期)純利益



POINT

1

売上高

当連結会計年度の当社グループの売上高は、71,470百万円となり、前連結会計年度比16.5%の増加と順調に推移しました。薬価制度改革による薬価の大幅な下落など、厳しい環境でのスタートとなりましたが、品質や付加価値などの当社グループの強

みを活かし、売上高を伸ばすことができました。製品別では消化性潰瘍用剤ランソプラゾールOD錠やジェネリック医薬品唯一の高脂血症用剤ピタバスタチンOD錠など、製剤付加価値の高い製品を中心に売上が順調に推移しました。

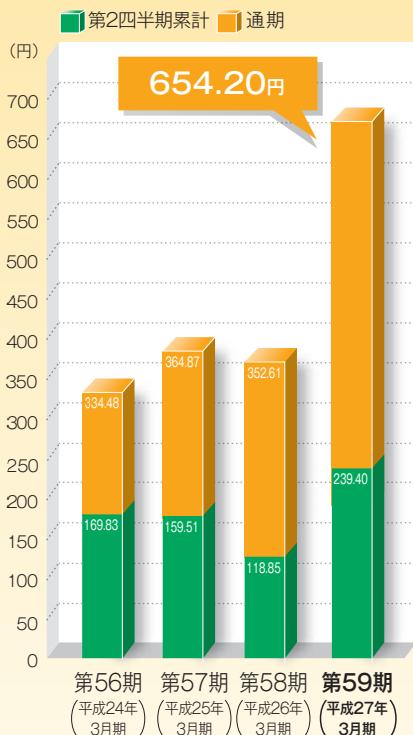
POINT

2

経常利益・当期純利益

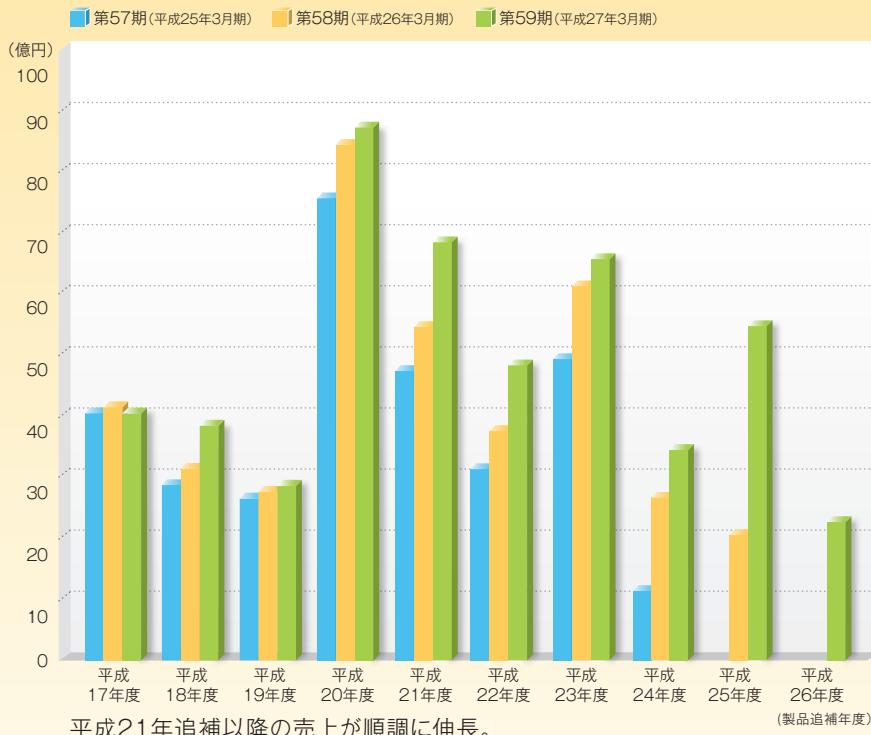
当連結会計年度の当社グループの経常利益は、15,437百万円となり前連結会計年度比74.7%の増加と大幅な増益となりました。高付加価値、高薬価品の販売数量の増加、また生産数量の増加による工場稼働率の上昇により、営業利益が前連結会計年度比44.1%増加

1株当たり当期(四半期)純利益



しました。加えて円安の影響により、輸入原材料購入などの米ドル手当てを目的として実施している、デリバティブ取引に係る評価益を2,999百万円計上したことが主な要因です。当期純利益についても11,118百万円と前連結会計年度比85.5%の増加となりました。

追補年度別売上高推移(個別)



次期の見通し

DPC病院、保険薬局におけるジェネリック医薬品の採用が引き続き順調に増加する見込みであり、当社グループの強みである直販体制による付加価値製剤の売上の増加を図ってまいります。一方当社グループで原薬製造を担う大地化成株式会社兵庫工場が平成27年3月より稼

働したことによる減価償却費の増加や、販売費及び一般管理費についても、業容拡大による人件費の増加が見込まれます。以上により次連結会計年度は売上高82,000百万円、営業利益11,500百万円、経常利益11,500百万円、当期純利益8,200百万円を見込んでおります。

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 (平成26年 3月31日現在)	当期 (平成27年 3月31日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産			
現金及び預金	6,038	3,009	△ 3,028
受取手形及び売掛金	19,505	22,669	3,164
有価証券	4,637	3,198	△ 1,439
1 たな卸資産	22,674	30,177	7,503
デリバティブ債権	1,624	4,624	2,999
その他	2,466	3,186	719
貸倒引当金	△ 152	△ 223	△ 70
流動資産合計	56,794	66,642	9,848
固定資産			
建物及び構築物	21,663	24,750	3,087
土地	7,249	9,136	1,887
建設仮勘定	3,470	2,883	△ 587
その他	10,204	13,806	3,601
2 有形固定資産合計	42,587	50,577	7,989
無形固定資産合計	906	864	△ 41
投資有価証券	1,937	1,900	△ 36
その他	1,099	1,209	110
貸倒引当金	△ 6	△ 7	△ 0
投資その他の資産合計	3,029	3,103	73
固定資産合計	46,523	54,544	8,020
資産合計	103,318	121,187	17,869

POINT
1

たな卸資産

前連結会計年度と比較し、7,503百万円増加しました。売上の増加に対応し、製品在庫の積み増しを行い、安定的な供給体制の充実に努めています。

POINT
2

有形固定資産合計

前連結会計年度と比較し、7,989百万円増加しました。主に大地化成で建設を行っていた原薬製造工場が完成したことによります。

(単位:百万円)

科目	前期 (平成26年 3月31日現在)	当期 (平成27年 3月31日現在)	増減
(負債の部)			
流動負債			
支払手形及び買掛金	9,775	12,577	2,801
未払金	3,602	5,398	1,795
未払法人税等	1,915	3,366	1,450
その他	9,463	9,711	248
流動負債合計	24,757	31,054	6,296
固定負債			
3 長期借入金	16,620	18,468	1,848
その他	1,792	1,616	△ 176
固定負債合計	18,413	20,085	1,671
負債合計	43,170	51,139	7,968
(純資産の部)			
株主資本			
資本金	4,717	4,717	—
資本剰余金	7,870	7,870	—
利益剰余金	48,049	57,893	9,843
自己株式	△ 639	△ 639	△ 0
株主資本合計	59,998	69,841	9,843
その他の包括利益累計額合計	149	206	57
純資産合計	60,147	70,048	9,900
負債純資産合計	103,318	121,187	17,869

POINT
3

長期借入金

前連結会計年度と比較し、1,848百万円増加しました。生産能力増強設備資金として44億円の借入を実施しました。

POINT
4

売上高/売上原価/売上総利益

売上高は前連結会計年度と比較し、16.5%の増収となりました。生産数量の増加により工場稼働率が改善し、売上原価率は2.5%低下しました。その結果、売上総利益率も2.5%改善しました。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)	当期 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	増減
4 売上高	61,351	71,470	10,119
売上原価	31,121	34,487	3,365
売上総利益	30,230	36,983	6,753
5 販売費及び一般管理費	22,523	25,877	3,354
営業利益	7,706	11,105	3,398
営業外収益	1,308	4,488	3,180
営業外費用	180	156	△ 24
経常利益	8,834	15,437	6,603
特別利益	0	0	0
特別損失	132	231	99
税金等調整前当期純利益	8,702	15,206	6,503
法人税、住民税及び事業税	2,392	4,371	1,978
法人税等調整額	317	△ 283	△ 600
当期純利益	5,992	11,118	5,125

POINT

5

販売費及び一般管理費

業容拡大に伴う要員の増加による人件費の増加、及び付加価値製剤などを含む開発品目の増加に伴う研究開発費の増加などにより、販売費及び一般管理費が前連結会計年度と比較し、14.9%増加しました。

6 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)	当期 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,144	8,037	△ 107
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,300	△ 8,230	3,070
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,529	238	△ 3,291
現金及び現金同等物に係る換算差額	251	487	235
現金及び現金同等物の増加額	624	532	△ 92
現金及び現金同等物の期首残高	3,985	4,675	689
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	65	—	△ 65
現金及び現金同等物の期末残高	4,675	5,208	532

POINT
6

連結キャッシュ・フロー計算書

現金及び現金同等物は5,208百万円となりました。

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

税金等調整前当期純利益15,206百万円などの収入があり、8,037百万円の収入となりました。

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

有形固定資産の取得による支出13,321百万円などがあつたため、8,230百万円の支出となりました。

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

長期借入金による収入44億円などがあり、238百万円の収入となりました。

連結株主資本等変動計算書 (平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計	
平成26年4月1日 期首残高	4,717	7,870	48,049	△ 639	59,998	131	17	149	60,147
会計方針の変更による累積的影響額			0		0				0
会計方針の変更を反映した当期首残高	4,717	7,870	48,049	△ 639	59,998	131	17	149	60,147
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 1,274		△ 1,274				△ 1,274
当期純利益			11,118		11,118				11,118
自己株式の取得				△ 0	△ 0				△ 0
株主資本以外の項目					—	119	△ 61	57	57
連結会計年度中の変動額合計	—	—	9,843	△ 0	9,843	119	△ 61	57	9,900
平成27年3月31日 期末残高	4,717	7,870	57,893	△ 639	69,841	251	△ 44	206	70,048

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

個別財務諸表(要約)

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 (平成26年 3月31日現在)	当期 (平成27年 3月31日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産			
現金及び預金	5,681	2,560	△ 3,121
受取手形	8,637	10,738	2,101
売掛金	10,093	11,030	937
有価証券	4,637	3,198	△ 1,439
たな卸資産	21,976	29,507	7,530
デリバティブ債権	1,624	4,624	2,999
その他	2,288	2,729	440
貸倒引当金	△ 154	△ 225	△ 70
流動資産合計	54,785	64,164	9,378
固定資産			
建物及び構築物	20,273	19,768	△ 505
土地	6,550	8,403	1,852
建設仮勘定	1,009	2,801	1,791
その他	9,337	10,126	789
有形固定資産合計	37,171	41,099	3,927
無形固定資産合計	1,008	944	△ 63
投資有価証券	1,937	1,900	△ 36
その他	4,355	8,777	4,422
貸倒引当金	△ 6	△ 7	△ 0
投資その他の資産合計	6,285	10,670	4,384
固定資産合計	44,466	52,714	8,248
資産合計	99,251	116,879	17,627

(単位:百万円)

科目	前期 (平成26年 3月31日現在)	当期 (平成27年 3月31日現在)	増減
(負債の部)			
流動負債			
支払手形	1,843	2,452	608
買掛金	7,552	9,839	2,286
未払金	3,442	4,804	1,362
未払法人税等	1,869	3,365	1,495
その他	7,462	7,499	36
流動負債合計	22,171	27,960	5,789
固定負債			
長期借入金	15,933	17,858	1,924
その他	1,714	1,575	△ 139
固定負債合計	17,648	19,433	1,784
負債合計	39,819	47,393	7,574
(純資産の部)			
株主資本			
資本金	4,717	4,717	-
資本剰余金	7,870	7,870	-
利益剰余金	47,351	57,285	9,934
自己株式	△ 639	△ 639	△ 0
株主資本合計	59,300	69,234	9,934
評価・換算差額等合計	131	251	119
純資産合計	59,432	69,485	10,053
負債純資産合計	99,251	116,879	17,627

損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (平成26年4月1日 平成26年3月31日まで)	当期 (平成26年4月1日 平成27年3月31日まで)	増減
売上高	59,696	69,638	9,942
売上原価	29,621	32,782	3,160
売上総利益	30,074	36,855	6,781
販売費及び一般管理費	22,287	25,708	3,420
営業利益	7,786	11,147	3,360
営業外収益	1,318	4,507	3,189
営業外費用	169	141	△ 27
経常利益	8,935	15,513	6,578
特別利益	0	0	0
特別損失	414	228	△ 185
税引前当期純利益	8,521	15,285	6,763
法人税・住民税及び事業税	2,318	4,371	2,053
法人税等調整額	395	△ 294	△ 690
当期純利益	5,807	11,208	5,401

株主資本等変動計算書 (平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

(単位:百万円)

	資本金	資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金 合計	自己株式	株主資本 合計	評価・換算 差額等合計	純資産合計
				特別償却準備金	土地圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金					
平成26年4月1日 期首残高	4,717	7,870	399	1,006	117	40,185	5,642	47,351	△ 639	59,300	131	59,432
会計方針の変更による累積的影響額							0	0		0		0
会計方針の変更を反映した当期首残高	4,717	7,870	399	1,006	117	40,185	5,642	47,351	△ 639	59,300	131	59,432
事業年度中の変動額												
特別償却準備金の取崩し				△ 159			159	-		-	-	-
別途積立金の積立						4,300	△ 4,300	-		-	-	-
剰余金の配当							△ 1,274	△ 1,274	△ 1,274	-	△ 1,274	-
当期純利益							11,208	11,208		11,208	-	11,208
自己株式の取得								-	△ 0	△ 0	-	△ 0
株主資本以外の項目										-	119	119
事業年度中の変動額合計	-	-	-	△ 159	-	4,300	5,794	9,934	△ 0	9,933	119	10,052
平成27年3月31日 期末残高	4,717	7,870	399	847	117	44,485	11,436	57,285	△ 639	69,234	251	69,485

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

会社の概況と株式の状況 (平成27年3月31日現在)

会社概要

社名 東和薬品株式会社
 本社 〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号
 TEL:06-6900-9100(代表)
 代表者 代表取締役社長 吉田 逸郎
 創業 昭和26年6月
 設立 昭和32年4月
 上場取引所 東京証券取引所市場第一部(証券コード:4553)
 資本金 47億1,770万円
 事業内容 医療用医薬品の製造・販売
 自社製品 661品目(平成26年12月現在)
 従業員数 2,000名(平成27年4月1日現在)
 取引銀行 三菱東京UFJ銀行 門真支店
 みずほ銀行 守口支店
 三菱UFJ信託銀行 大阪支店
 日本政策投資銀行 関西支店
 研究所 中央研究所 製剤研究所 京都分析科学センター 尼崎リサーチセンター
 工場 大阪工場 岡山工場 山形工場
 子会社 ジェイドルフ製薬株式会社(医療用医薬品の製造販売)
 大地化成株式会社(医薬品原薬・中間体の研究開発及び製造)

株式の状況

発行可能株式総数 49,000,000株
 発行済株式総数 17,172,000株
 1単元の株式数 100株
 株主数 3,833名

大株主一覧(上位10名)

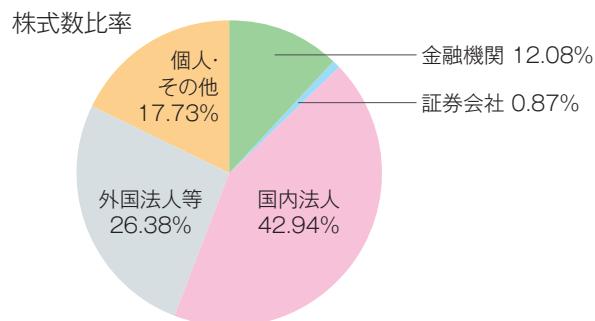
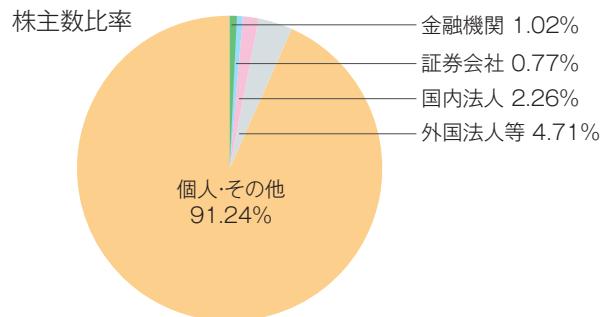
株主名	持株数	持株比率
(株)吉田事務所	4,700千株	27.65%
(有)吉田興産	2,000	11.76
吉田 逸郎	485	2.85
東和薬品共栄会	437	2.57
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラー・アカウント	422	2.48
ピクテアンドシーヨーロッパエスエー	377	2.22
(有)吉田エステート	300	1.76
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	285	1.67
東和薬品社員持株会	265	1.56
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	260	1.53

(注) 持株比率は、自己株式(176,852株)を控除して計算しています。

取締役及び監査役(平成27年6月24日現在)

代表取締役社長 吉田 逸郎	取締役 椋田 隆司
専務取締役 大澤 孝	取締役 内藤 泰史
常務取締役 白川 敏雄	取締役 長村 聡仁
取締役 薮下 啓二	社外取締役 栄木 憲和
取締役 西川 義明	常勤監査役 栗原 一夫
取締役 森野 禎之	監査役 皆木 武久
取締役 前山 茂	社外監査役 森野 實彦
取締役 今野 和彦	社外監査役 三村 淳司
取締役 沖本 和人	

株主分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月に開催
剰余金の配当の基準日 3月31日、9月30日
1単元の株式数 100株
公告掲載方法 電子公告によって行います。
<http://www.towayakuhin.co.jp/ir/stock/koukoku.html>
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人ならびに特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 〒541-8502
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
TEL:0120-094-777(通話料無料)

◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

口座を開設されている証券会社等にお申出ください。なお、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

◎未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し付けください。

次のテレビ番組を提供しています。

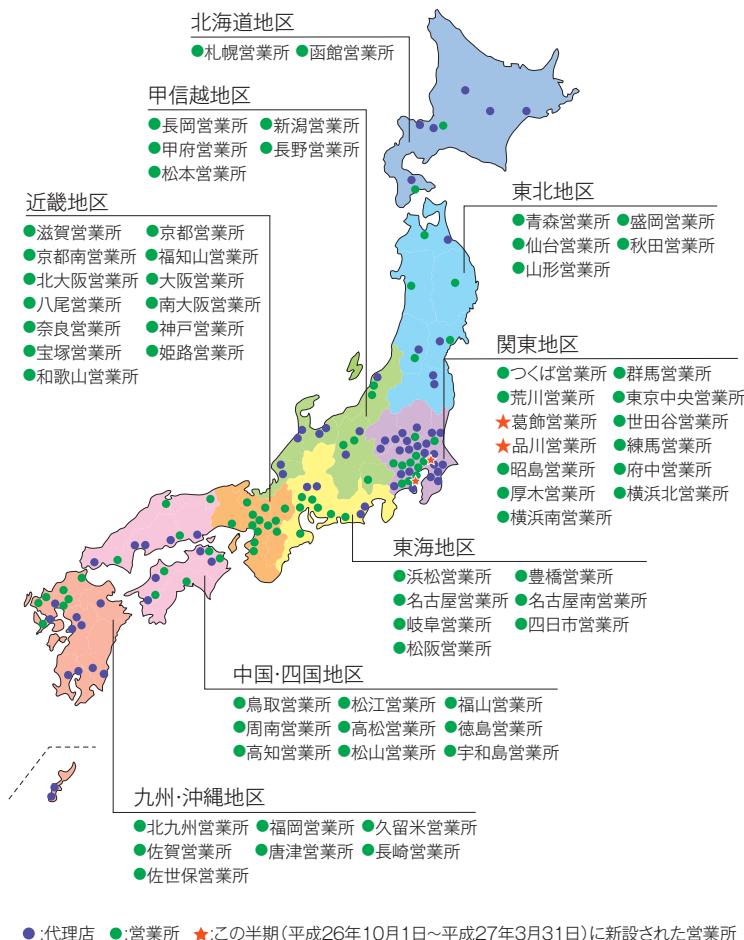
- 報道ステーション テレビ朝日系24局ネット
毎週月曜日 21:54-23:10
- 火曜サプライズ 日本テレビ系28局ネット
毎週火曜日 19:00-19:56
- コドモノクニ BS朝日
毎週水曜日 22:00-23:00

◎見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。

営業・販売拠点のご紹介

当社は営業所の新設や移転による販売流通網の整備を進め、代理店68カ所・営業所61カ所を拠点に、営業・販売活動を行っています(平成27年3月31日時点)。今後も引き続き「東和式直販体制」のさらなる強化を図ってまいります。



東和薬品株式会社

〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号
TEL:06-6900-9100(代表)
<http://www.towayakuhin.co.jp>
皆様からのアクセスをお待ちしています。



FSC森林認証紙、
植物油インキを使用しています。